



**ALWAYS
PREPARE
LIVING WITH CHANGES**

事業開催報告書

2013.2

+arts

NPO法人プラス・アーツ

(1) 事業概略

「地震 ITSUMO プロジェクト in Thailand」

本プロジェクトは、日本の防災への取り組みの創造的な事例といえる「地震 ITSUMO」のコンセプトをタイで紹介するとともに、それを踏まえ、タイでの大洪水の教訓をもとにしたオリジナルのプログラム開発やそれらを流通させることを目的としたプロジェクトである。



「防災は、地震のための特別な努力ではなく、私たちのライフスタイルの中に自然に横たわるものであってほしい」—『地震 ITSUMO プロジェクト』は、そんな願いから、阪神大震災の教訓をもとに、神戸や東京を中心に展開されてきたクリエイティブな防災活動である。NPO 法人プラス・アーツでは、阪神大震災後 10 年目の節目の年に、167 人の被災者の声を集めて整理、編集し、そこから次世代を担う子どもたちに伝えていくべき教訓や知識、技を抽出し、それらを伝えていくための様々なプログラムやコンテンツを開発・展開してきた。その例としては、「日常化」をテーマとした防災グッズのデザイン・コンペ、様々な教訓をイラスト本にまとめて発刊された「地震イツモノート」、子どもたちが楽しみながらしっかりと学べる防災訓練「イザ！カエルキャラバン！」などに代表される。関係者は今、東日本大震災の教訓をもとに、そのいくつかの内容を見直した改訂版プロジェクトを開発中である。

これら日本側の地震災害に対する防災の展示に加えて、タイ側の洪水災害や洪水対策に関する展示が加えられ、タイと日本両国のコラボレーションが実現した。

(2) 実施内容

[ワークショップ]

● 『建築・デザインワークショップ』①

日程：2012年4月27日（金）

場所：TCDC（オーデトリウム エンポリアム・ショッピング・コンプレックス6階）

講師：曾我部昌史（ソガベアトリエ）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／Thailand Creative and Design Center (TCDC) ／NPO 法人プラス・アーツ

参加者：21名



防災+デザインをテーマにした展覧会『ALWAYS PREPARE 展』の展示空間ディレクターである曾我部昌史氏によるワークショップを実施。災害時に日用品、自宅、コミュニティー、そして街をどのように活用し自然災害の被害から自己を守るかを考えるワークショップを開催しました。限定25名の参加者で行われた1回目のプログラムでは曾我部さんのレクチャーが行われ、曾我部さんの建築に取り組む作法とも言える「人との関わり方をデザインする」「既にあるものをうまく活用する」「身近なものでつくる」の3つのポイントについて事例を交えながら説明し、参加者に多くの刺激を与えました。班分け後各チームで活発な意見交換が行われ、翌日28日はチーム毎に自主的に議論し提案をまとめ、29日の2回目のワークショップにて、各チームからの提案発表を行いました。

[ワークショップ]

● 『防災教育についてのレクチャー&ワークショップ』

日程：2012年4月28日（土）

講師：永田宏和（NPO 法人プラス・アーツ）

主催：タイ PBS（国営放送）

タイ PBS（国営放送）主催の防災教育をテーマにしたレクチャーを実施。プラス・アーツオリジナル教材の紹介や日本での防災教育の取り組み紹介を行いました。参加者は、教育関係の行政、NPO、デザイナーなど、多くの方々にご参加頂き、講演会後は、複数のチームに分かれ、タイ国での災害に対してどのようなプログラムがあると良いかをディスカッションしました。今回のレクチャーが、タイの教育関係者に良い刺激を与え、そこから活動が起こることを望むワークショップとなりました。



[ワークショップ]

● 『建築・デザインワークショップ』②

日程：2012年4月29日（日）

場所：TCDC（オーデトリウム エンポリアム・ショッピング・コンプレックス6階）

講師：曾我部昌史（ソガベアトリエ）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／Thailand Creative and Design Center (TCDC) ／NPO 法人プラス・アーツ

参加者：21名



27日に行った水害と建築をテーマにしたワークショップの中間発表会を実施しました。中一日という非常にタイトなスケジュールでしたがどのチームもとてもレベルが高く、非常にユニークな目の付けどころでタイオリジナルの提案が次々と出されました。そのなかでもおもしろかった提案は、タイではお馴染みの選挙期間中に街にたくさん掲出されてゴミになってしまうプラスチック段ボールの巨大な看板を活用したシェルターの提案やタイの伝統的なマットを日本の大判ハンカチのように水害時に様々に活用するアイデア、そして洪水後発生する市民のゴミ問題をサポートする市民サービスの提案でした。ワークショップ実施後も、MLが作成され、コミュニケーションを継続的に図りながらそれぞれの案のブラッシュアップを行いました。最終的には、9月末からの展覧会にて、今回の取り組みの成果として展示されました。

[ワークショップ]

● 『タイ版 洪水対策プログラム 開発ワークショップ』①

日程：2012年7月3日（火）

場所：TCDC（オーデトリウム エンポリアム・ショッピング・コンプレックス6階）

講師：永田宏和（NPO 法人プラス・アーツ）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／Thailand Creative and Design Center (TCDC) ／NPO 法人プラス・アーツ

タイ PBS（国営放送）主催で行った防災教育をテーマにしたレクチャー&ワークショップでの参加グループのアイデアをもとに、プログラム開発のワークショップを開催。永田氏を講師に迎え、地震イツモの紹介からは始まり、「カエルキャラバン」ミニレクチャーおよび防災教育ゲームの体験ワークショップを行い、子供を対象にした防災プログラム、プロダクト、ゲームの作り方のコツやノウハウなどを紹介しました。

参加者とのディスカッションの中で、今回は“子供を対象にした防災プログラム”、テーマを“洪水”とし、9月の展覧会への出展を目指し、各自でプログラム開発に取り組みました。

[ワークショップ]

● 『タイ版 洪水対策プログラム 開発ワークショップ』②

日程：2012年8月17日（金）

場所：TCDC（オーデトリウム エンポリウム・ショッピング・コンプレックス6階）

講師：永田宏和（NPO 法人プラス・アーツ）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／Thailand Creative and Design Center (TCDC) ／NPO 法人プラス・アーツ

前回（7/3）実施後からの進捗を確認し、展覧会のための出展コンテンツに対するエスキスを行いました。コンテンツの改善箇所や最終的なブラッシュアップの方法、またプロセスから見せる展示の仕方など具体的な内容のアドバイスをしました。

最終的に、こどもが避難するときに必要な携行品と防災に関する知恵をまとめた「マジックバッグ」と「ポケットブック」が完成し、「地震！T SUMO展 in バンコク」に一コンテンツとして展示。ポケットブックは洪水に特化したこども向け防災マニュアルブックとなり、地震イツモのコンセプトがタイ現地の事象に基づき発展した事例となりました。

[特別講演会]

● 『寄藤文平氏による特別講演会「パブリックとデザイン」』

期間：2012年9月28日（金）18：30－20：30

場所：TCDC（オーデトリウム エンポリウム・ショッピング・コンプレックス6階）

講師：寄藤 文平氏（有限会社文平銀座）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／Thailand Creative and Design Center (TCDC)／NPO 法人
プラス・アーツ

参加人数： 109名

日本たばこ産業の「大人たばこ養成講座」、「マナーの気づき」や東京メトロの「TOKYO WONDERGROUND」、「We are the Tokyo Navigator」など、日本の大手企業が取り組むマナー広告の仕事を数多く手がけてきた寄藤文平氏。寄藤氏は「公共（パブリック）」なるものに対して「デザイン」がどのようにアプローチし、どれだけの効果を上げられるかを真髓に仕事を行っている。今回の展覧会で多数紹介されている防災関連のデザインワークを含め、これまでに「公共（パブリック）」というテーマに対して取り組んできたデザインワークの数々を独特の考え方を交えながら解説いただきました。

[展覧会]

● 『ALWAYS PREPARE 展』

期間：2012年9月28日～2013年1月6日

場所：TCDC（オーデトリウム エンボリアム・ショッピング・コンプレックス6階）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／
Thailand Creative and Design Center (TCDC) ／
NPO 法人プラス・アーツ



防災+デザインをテーマにした展覧会『ALWAYS PREPARE 展』を約3カ月間にわたる期間で実施しました。この展示は日本での“防災+デザイン”をテーマとした防災教育・防災啓発の取り組みとして、様々なクリエイターと協働でつくりあげてきた活動を総合的に紹介する展覧会です。その展示のなかで、①リサーチが重要であること。被災者の声に耳を傾け、多くの教訓、知識、技を学ぶこと。②その防災の教訓や知識、技をわかりやすく、親しみやすく伝えるために「+クリエイティブ」の手法をとること。デザインやアート、建築の力を借りることで多くの人に強度を持って伝えることが可能になること。③国や自治体といった行政関係に加え民間セクターとも積極的にコラボレーションし多層的に防災教育、防災啓発の活動を展開すること。大きくこの3つの重要性をタイの人たちに伝えるべく、今回の展示を実施しました。さらに今回この展示を見た人が、「地震」を「洪水」に置き換えてアイデアやイメージを広げてもらえるようなここから展開していくような展示を目指しました。

[特別講演会]

● 『曾我部昌史氏による特別講演会

「この先の日本で建築家に何が可能か。そのトライアル。」』

日程：2012年10月27日（土）15：00－17：00

場所：TCDC（オーデトリウム エンボリアム・ショッピング・コンプレックス6階）

主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／
Thailand Creative and Design Center (TCDC)
／NPO 法人プラス・アーツ

参加人数：79名



防災+デザインをテーマにした展覧会『ALWAYS PREPARE 展』の展示空間ディレクターである曾我部昌史氏を講師に招き、特別講演「この先の日本で建築家に何が可能か。そのトライアル。」を開催しました。デザインやアートを専攻する大学生やクリエイター、特に建築関係者の参加が多く、講師と聴講者のニーズが一致していたことや、プロジェクターで今までの作品に始まり、内容を裏付ける歴史的背景、統計など幅広い資料を使って分かりやすく講演し、参加者は大変興味深く内容に聞き入っていました。

[ワークショップ]

● 『BOSAI スタンプラリー』

日程：2012年11月17日（土）13：00-17：00
場所：TCDC（オーデトリウム エンポリアム・ショッピング・コンプレックス6階）
主催：国際交流基金バンコク日本文化センター／
Thailand Creative and Design Center（TCDC）
／NPO 法人プラス・アーツ
参加人数：100名



防災+デザインをテーマにした展覧会『ALWAYS PREPARE 展』の関連企画で講演会と展覧会場前のロビーで「イザ！カエルキャラバン！」のスタンプラリーバージョン『BOSAI スタンプラリー』を開催致しました。このデモンストレーションにあわせて防災カードゲーム「なまずの学校」と蛇腹折りタイプの携帯用「防災マニュアルブック」をそれぞれタイ語に翻訳し制作しました。

その後、12/1にも、国際交流基金バンコク日本文化センターのスタッフとボランティアの皆さんによる『BOSAI スタンプラリー』が開催されるなど、今後タイでの継続的な開催・展開が期待されます。

(3) 実施協力機関

●日本側

国際交流基金、NPO 法人プラス・アーツ、有限会社文平銀座、ソガベアトリエ

無印良品、東京ガス株式会社、アクシスギャラリー、株式会社ポプラ社、株式会社木楽舎、ららぽーとマネージメント株式会社、三井不動産株式会社

●タイ側

国際交流基金バンコク日本文化センター、Thailand Creative and Design Center (TCDC)

QLF(Quality Learning Foundation)、Thai PBS

(4) 事業評価

今回の展覧会では、被災体験者への徹底的なリサーチをベースに、その地域固有の災害種（私たちの場合は地震災害）に関する防災の「知識」や「技」を抽出し、多種多様な体験プログラムや教材の開発、啓発プロジェクトの展開へとつなげていった日本発の『地震 ITSUMO プロジェクト』を包括的に紹介するとともに、各プログラムや教材、啓発ツールなどの成果物もできるかぎりわかりやすく展示を行いました。

さらに、日本での成果を展示するだけでなく、日本特有の「地震災害」に関する防災教育、防災啓発プログラムの開発及び展開事例を参考に、先般タイ国内で大きな被害をもたらした「大洪水」をテーマにした防災教育プログラム開発のためのワークショップを実施し、バンコクのクリエイターとともに「洪水」をテーマにした2種類の防災教材開発を行い、展示しました。これらの新たな防災教材はその後反響があり、展覧会終了後にタイ国内で活用されようとしています。

また、『地震 ITSUMO プロジェクト』のなかの代表的な防災教育プログラムである、楽しく学ぶ新しい形の防災訓練「イザ！カエルキャラバン！」が「体験」を通じてプログラムの本当の意味や効果を理解してもらえることから、展覧会期半ばの時期に展覧会場前の TCDC のロビー空間を使って「イザ！カエルキャラバン！」スタンプラリー版を開催し、訪れた来場者に実際にプログラムを体験してもらい、防災の知識や技を感じてもらおうという試みも実施しました。

そして、展覧会場以外でも、地元のテレビ局や教育系 NGO、学校などとタイアップした「地震 ITSUMO」をテーマにした講演会や体験プログラムの実演を交えたワークショップなどを多数開催し、「楽しく学ぶ防災」の考え方そのものをタイの子どもたち、学生、教師、防災関係者など幅広い層の人たちに伝える活動を行いました。

約3カ月の会期で開催された展覧会には多くの人たちが来場し、その内容が複数のメディアで紹介されるなど一定の効果を上げたことは間違いない。しかし、本プロジェクトの真価が問われるのはまさにこれからで、タイにおける新しい防災の取り組みがどれだけ広がっていくかにかかっている。私たちが今回一番伝えたかったのは「楽しく学ぶ防災」の考え方そのものであり、そこに関わる多くの人たちの意識を変えることであった。そういった視点に立つと、本プロジェクトはこれで終了したわけではなく、今後も地域に求められる適度で適正なサポートを行う必要があり、今回撒いた種がしっかりと根を張り、育っていくために私たちができることを協力していければと考えています。

(5) 事業関連資料及び成果物

● 防災カードゲーム「タイ版シャッフル」

災害時に役立つ知恵や技の手順を、遊びを通して学ぶ防災カードゲームです。TCDC 主催のワークショップで知り合った Ms.Ruttikorn Vuttikorn が代表を務める Crub Creative co.,Ltd と共同開発し、タイオリジナル水害バージョンとして、日本での地震対策 12 のテーマのうち、5 つを洪水対策のテーマに変更しました。



作品名： 防災カードゲーム『タイ版シャッフル』

制作者： NPO 法人プラス・アーツ、Club Creative

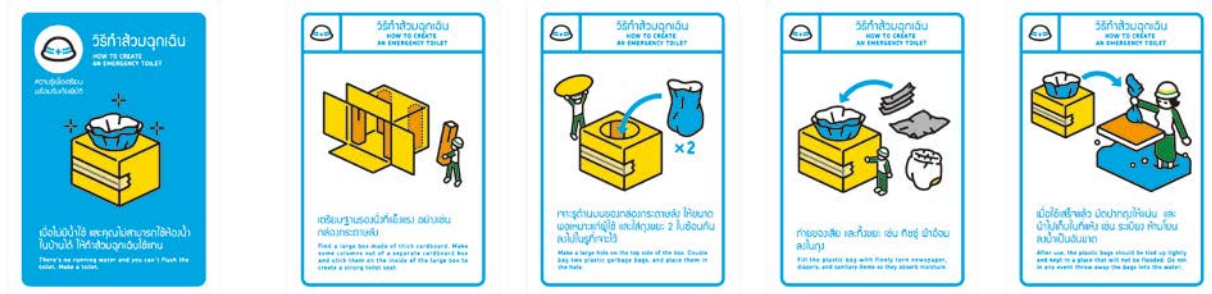
協力： TCDC、国際交流基金

<水害バージョンとして変更した5つのお題>

・洪水避難マップの作りかた



・非常用トイレの作りかた



・ゴミの片づけかた



・ライフジャケットの作りかた



・水中安全靴の作りかた



● 「BOSAI スタンプラリー」 関連ツール

・スタンプラリーシート



・景品用缶バッチ



● 「防災マニュアルブック」(タイ語バージョン)

サイズ : 74×105mm ※7つ蛇腹折り

・オモテ



・ウラ



● 防災カードゲーム「なまずの学校」(タイ語バージョン※全5問)

Q1

ได้เกิดแผ่นดินไหวครั้งใหญ่ขึ้น
ทำให้บ้านหลังหนึ่งพังลงมาและมีคนติดอยู่
ได้ชากปรัคหักพัวนั้น เขาไม่สามารถขยับเขยื้อนได้
จงเลือกเครื่องมือที่สามารถนำไปช่วย
เหลือผู้ประสบภัยดังกล่าว

6/6

Q1

80 ค้อนแบบพาดู
เมื่อใช้ค้อนตอกตะปูที่มีร่องรอยที่ไม้ข้างบน (ตะปู 3 อัน)
จะสามารถยกหลังคาที่พังลงมาได้และช่วยชีวิตผู้ติดอยู่
หรืออาจนำไปช่วยผู้
อื่นที่ประสบภัยอื่นได้ด้วยถ้าใช้ตามวิธีข้างบน

80 ค้อนแบบตะลุง
สามารถใช้ตอกตะปูที่ตีลงในตะปูตาม
ตะปูตามรอยที่ตีไว้ที่พื้นไม้ได้แต่ไม่สามารถใช้เพื่อ
รับน้ำหนักที่: ตะปูตอกลงบนพื้นไม้ได้

4/6

Q1

90 ค้อนแบบท่อนไม้
สามารถใช้ตอกตะปูที่ตีลงในตะปูตามรอยที่ตีไว้ที่พื้นไม้ได้แต่
ไม่สามารถใช้เพื่อรับน้ำหนักที่: ตะปูตอกลงบนพื้นไม้ได้

5/6

